

研究・調査報告書

報告書番号	担当
197	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Estimating the impact of alcohol consumption on survival for HIV+ individuals.</p> <p>HIV 陽性者の生存期間に及ぼす飲酒の影響について</p>	
執筆者	
<p>Braithwaite RS, Conigliaro J, Roberts MS, Shechter S, Schaefer A, McGinnis K, Rodriguez MC, Rabeneck L, Bryant K, Justice AC.</p>	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
<p>AIDS Care. 2007 Apr;19(4):459-66.</p>	
キーワード	
<p>HIV、レトロウイルス、飲酒、生存期間</p>	
要旨	
<p>目的:</p> <p>HIV陽性者において、飲酒は抗レトロウイルス薬の服薬率を低下させ、予後を悪化させるが、飲酒の生存期間への影響の程度は明らかにされていない。そこで、飲酒の生存期間への影響の程度を推定した。大規模な観察集団(2,702人)で飲酒量と服薬率の量反応関係を調べた。</p> <p>方法:</p> <p>対象者を非飲酒者、通常飲酒者(1回飲酒量5杯未満)、危険飲酒者(1回飲酒量5杯以上)の三群に分けた。コンピューターによるシミュレーションで仮想的な40歳の平均生存期間を計算した。</p> <p>結果:</p> <p>通常飲酒者で一週間に1回以上の飲酒者は1年以上、毎日飲酒する者は3.3年(生存期間が21.7年から18.4年に短縮)生存期間が短かった。危険飲酒者では一週間に1回以上の飲酒者は3年以上、毎日飲酒する者は6.4年(生存期間が16.1年から9.7年に短縮)生存期間が短かった。</p> <p>結論:</p> <p>飲酒はHIV陽性者の生存期間を短くする危険因子であることが示唆された。飲酒行動が改善可能であるにもかかわらず、このことはあまり認識されていない。</p>	